

第61回日本公衆衛生学会総会（埼玉）のまとめ

1 学会長，副学会長，顧問

名誉学会長 土屋 義彦（埼玉県知事）
 学 会 長 北川 定謙（埼玉県立大学学長）
 副 学 会 長 山崎寛一郎（埼玉県医師会会長）
 副 学 会 長 井上 晶子（埼玉県健康福祉部長）
 副 学 会 長 柿沼トミ子（埼玉県環境防災部長）
 顧 問 相川 宗一（さいたま市長）
 顧 問 小林 秀資
 （国立保健医療科学院院長）
 顧 問 一ノ渡尚道（防衛医科大学学校校長）
 顧 問 東 博彦（埼玉医科大学学長）
 顧 問 香川 芳子（女子栄養大学学長）

2 開催日

平成14年10月23日（水）

5 参加者数

(1) 有料入場者数 3,945人

職 種 別	人 数	%	都道府県別	人 数	%
1. 医師（行政）	237	12.2	1. 東京都	232	12.3
2. 医師（教育・研究）	165	8.5	2. 埼玉県	179	9.5
3. 医師（臨床）	49	2.5	3. 大阪府	132	7.0
4. 歯科医師	50	2.6	4. 千葉県	87	4.6
5. 薬剤師	44	2.3	5. 神奈川県	81	4.3
6. 獣医師	17	0.9	6. 愛知県	60	3.2
7. 保健師	583	30.1	7. 群馬県	57	3.0
8. 看護師・准看護師	96	5.0	8. 茨城県	51	2.7
9. 管理栄養士・栄養士	96	5.0	9. 岡山県	47	2.5
10. 臨床・衛生検査技師	38	2.0	10. 石川県	45	2.4
11. 歯科衛生士・技工士	14	0.7	10. 福岡県	45	2.4
12. 健康教育系	85	4.4	12. 北海道	43	2.3
13. 生物・物理・化学・工学系	31	1.6	13. 京都府	41	2.2
14. 事務系	34	1.8	14. 奈良県	40	2.1
15. その他	326	16.8	15. 兵庫県	34	1.8
16. 無記入	73	3.8	16. その他	716	37.9
小 計	1,938	100	小 計	1,890	100
不 明	2,007	—	不 明	2,055	—
合 計	3,945	—	合 計	3,945	—

開会式，学会長講演，総会議事，特別講演，シンポジウム，自由集会

平成14年10月24日（木）

特別講演，教育講演，シンポジウム，奨励賞受賞者講演，一般演題（ミニシンポジウム・示説），ワークショップ，記念ブース，自由集会
 平成14年10月25日（金）

シンポジウム，市民公開講座，一般演題（ミニシンポジウム・示説），ワークショップ，記念ブース

3 開催地

埼玉県さいたま市

4 会 場

大宮ソニックシティ

(2) その他の参加者 930人

項 目	人 数
関連イベント	
市民公開講座	600
すこやか彩の国シンポジウム	160
日中学術フォーラム	70
(招待) 看護学校・歯科衛生士専門学校	100
合 計	930

6 総会・特別行事等

前 日 平成14年10月22日(火)

1. 大宮ソニックシティ4階(市民ホール)

すこやか彩の国づくりシンポジウム

13:30~15:30

すこやか彩の国21プランの推進にあたり、市町村、民間団体、企業等が実施する健康づくり事業を支援するためのシンポジウムを開催しました。

内 容 シンポジウム

主 催 埼玉県, すこやか彩の国県民会議

第1日 平成14年10月23日(水)

1. 第1会場(大ホール)

開会式 09:00~09:30

(挨拶)

学 会 長 北川定謙(埼玉県立大学学長)

名誉学会長 土屋 義彦(埼玉県知事)

顧 問 相川 宗一(さいたま市長)

副 学 会 長 山崎寛一郎(埼玉県医師会長)

厚生労働大臣祝辞 坂口 力(厚生労働大臣)

学会長講演 09:30~10:30

戦後公衆衛生行政の発展

北川 定謙(埼玉県立大学学長)

座長 中原 俊隆(京都大学大学院医学研究科公衆衛生学教授)

平成14年度総会 10:30~11:00

(総会議事, 日本公衆衛生学会奨励賞授与式)

特別講演1 11:00~12:00

2010 and beyond: Defining and achieving cardiovascular health

2010年から先の長期展望: 循環器疾患対策の目標

設定とその達成法

Darwin R Labarthe, MD, MPH, PhD

Associate Director for Cardiovascular Health Policy and Research

Division of Adult and Community Health Promotion

Centers for Disease Control and Prevention

Atlanta, USA

座長 児玉 和紀(財団法人放射線影響研究所疫学部長)

シンポジウム1 13:30~16:30

「健康日本21」の進展

—地方計画の推進にむけて—

座長 上島 弘嗣(滋賀医科大学福祉保健医学教授)

辻 一郎(東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学教授)

基調講演 健康増進法の制定をめぐる

下田 智久(前厚生労働省健康局長)

1. 生活習慣改善の方法と問題点

岡山 明(岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学教授)

2. 現状把握と評価の具体的手法

坂田 清美(和歌山県立医科大学公衆衛生学助教授)

3. ポピュレーション・ストラテジーのすすめ方

水嶋 春朔(東京大学医学教育国際協力研究センター講師)

4. 自然を活用した健康な町づくりをめざして

阿部 弘樹(福岡県宗像郡津屋崎町長)

5. 地方計画策定における保健師の視点

津田 幸子(近江八幡市健康推進課課長補佐)

6. 健康寿命の指標化

辻 一郎(東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学教授)

7. 「健康日本21」に取り組み, 見えてきた保健所の存在意義

内藤 允子(岡山市保健所長)

第2日 平成14年10月24日(木)**1. 第1会場(大ホール)****特別講演2 09:00~10:00**

病因論に基づいた肝炎・肝がん対策

—対策実施の基となった疫学的背景と対策の理念—

吉澤 浩司(広島大学医学部衛生学教授)

座長 後藤 敦(埼玉県衛生研究所副所長)

特別講演3 10:00~11:00

青少年犯罪と公衆衛生

小林 秀資(国立保健医療科学院院長)

座長 平岩 幹男(戸田市立医療保健センター健康推進室長)

特別講演4 11:00~12:00

公衆衛生の反省と人権

大谷 藤郎(国際医療福祉大学総長)

座長 近藤 健文(慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教授)

シンポジウム2 13:00~15:00

健康危機管理における保健所の役割

座長 岡田 尚久(全国保健所長会長・島根県出雲保健所長)

尾崎 米厚(鳥取大学医学部医学科社会医学助教授)

1. 保健所の立場から

角野 文彦(滋賀県長浜保健所長)

2. 衛生研究所の立場から

丹野 瑛喜子(埼玉県衛生研究所長)

3. 国立感染症研究所感染症情報センターの立場から

岡部 信彦(国立感染症研究所感染症情報センター長)

4. 厚生労働省が保健所に期待するもの

佐藤 敏信(岩手県健康福祉部 前厚生労働省大臣官房厚生科学課健康危機管理対策室長)

指定発言 大型食中毒事件の対応

大塚 博史(熊本市保健所長)

セラチア菌の院内感染の対応

池田 和功(堺市保健所主査)

シンポジウム3 15:30~17:30

子ども虐待予防の取り組みと課題

座長 宮地 文子(埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科長・教授)

下泉 秀夫(国際医療福祉大学保健学部教授)

1. 保健所・市町村保健センターにおける取り組みの現状と課題

吉岡マサ子(埼玉県大里福祉保健総合センター福祉保健部長)

2. 保健機関における乳幼児虐待のリスクアセスメントについて

—虐待ハイリスクの把握と予防—

佐藤 拓代(大阪府健康福祉部地域保健福祉室長)

3. 児童相談所における取り組みの現状と課題

村瀬 修(静岡県西部児童相談所育成スタッフ主幹)

4. 地方における児童虐待予防ネットワーク

—子育て支援の一環としての「不適切な養育」支援—

三宅 捷太(横浜市瀬谷区福祉保健センター長)

5. 虐待予防と保健師の役割

—親と子の心のケア—

徳永 雅子(徳永家族問題相談室)

2. 第2会場(小ホール)**教育講演1 09:00~9:40**

健康・安全そして自立支援に必要とされるユニバーサルデザイン

徳田 哲男(埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉学科教授)

座長 山島 則義(埼玉県総合政策部文化振興課副参事)

教育講演2 09:40~10:20

エマージング感染症としてのBSE(牛海綿状脳症)

山内 一也(日本生物科学研究所理事・主任研究員)

座長 池本 卯典(日本獣医畜産大学学長)

教育講演3 10:20~11:00

食育・食教育とヘルスプロモーション

足立 己幸 (女子栄養大学食生態学研究
室教授)

座長 田中 久子 (埼玉県入間西福祉保健総合
センター主幹)

教育講演4 11:00~11:40

公衆衛生と個人情報保護

玉腰 暁子 (名古屋大学大学院医学研究
科予防医学/医学推計・判
断学教室助教授)

座長 能勢 隆之 (鳥取大学医学部社会医学講
座健康政策医学分野教授)

教育講演5 13:00~13:40

アメリカにおける保健医療の現場から

中澤 弘 (一般外科開業医師・アメリ
カ鍼灸アカデミー理事・元
ボルチモア市医師会長)

座長 北川 定謙 (埼玉県立大学学長)

教育講演6 13:40~14:20

最近の結核の動向—新しい結核対策のエビデンス
と考え方—

森 亨 (財団法人結核予防会結核研
究所所長)

座長 楠本 一生 (さいたま市保健所長)

教育講演7 14:20~15:00

社会福祉基礎構造改革—公衆衛生との連携—

蟻塚 昌克 (埼玉県立大学保健医療福祉
学部社会福祉学科教授)

座長 川口 毅 (昭和大学医学部公衆衛生学
教授)

教育講演8 15:00~15:40

医師臨床研修における公衆衛生専門家の役割

徳永 力雄 (関西医科大学衛生学教授)

座長 多田羅浩三 (大阪大学大学院医学系研究
科社会環境医学講座教授)

奨励賞受賞者講演 15:40~17:30

虚血性心疾患に対する死亡診断の妥当性に関する
疫学的研究

斉藤 功 (奈良県立医科大学公衆衛生

学教室講師)

座長 磯 博康 (筑波大学社会医学系地域医
療学教授)

わが国に合ったたばこ対策プログラムの開発・評
価とその普及に関する実践的研究

中村 正和 (大阪府立健康科学センター
健康生活推進部長)

座長 簗輪 眞澄 (国立保健医療科学院疫学部
長)

老人保健事業を中心とした地域保健対策の評価と
推進に関する研究

岡村 智教 (滋賀医科大学医学部福祉保
健医学講座助教授)

座長 飯田 稔 (関西女子短期大学教授)

地域における精神保健福祉活動

原口 章子 (埼玉県小鹿野町保健福祉セ
ンター保健課保健師長)

座長 飯島 羊子 (埼玉県健康福祉部健康福祉
政策課副参事)

3. 第6会場 (601会議室)

ワークショップ1 09:00~11:30

公衆衛生活動における調査・研究の進め方

中村 好一 (自治医科大学公衆衛生学教
授)

日中学術フォーラム 14:00~17:00

「環境と健康の創造」をテーマに公衆浴場とレ
ジオネラ肺炎, 水環境と健康, 少子高齢化におけ
る日本の課題, 生活習慣病と予防医学, オゾン層
と地球環境, 地下水の活用と水質汚濁の課題など
幅広く問題点を提起しました。

地球規模の環境問題に理解を深め公衆衛生に反
映していただくことを目的として, 中国瀋陽医学
院と埼玉県の関係者が共同開催いたしました。

内 容 フォーラム

主 催 埼玉日中医学技術交流会

後 援 埼玉県, 第61回日本公衆衛生学会総
会実行委員会

第3日 平成14年10月25日 (金)

1. 第1会場 (大ホール)

シンポジウム4 09:00~11:00

地域における環境保健とリスクコミュニケーション

ンの狙い

座長 安井 至 (東京大学生産技術研究所人間・社会部門教授)

基調講演 地域における環境保健とリスクコミュニケーションのあり方

浦野 紘平 (横浜国立大学大学院環境情報研究院教授)

1. 化学物質の環境リスクコミュニケーションと保健行政の関わり

鈴木 幸雄 (環境省環境保健部環境リスク評価室長)

2. ダイオキシン対策から化学物質安心社会づくりに向けて

星野 弘志 (埼玉県環境防災部ダイオキシン対策室主席主幹)

3. くらしと化学物質をつなぐために

崎田 裕子 (フリージャーナリスト環境カウンセラー)

4. ダイオキシン類の人体への影響調査をめぐって

田中 倬 (埼玉県川越保健所長)

5. 環境を再生し守るための鍵：リスクコミュニケーション

瀬田 重敏 (社団法人日本化学工業協会広報委員長)

市民公開講座 13:30~16:00

生活習慣病を予防し、将来百兆円を超えると予測される医療・介護費を大幅に削減することは日本の重要課題となっています。お二人の先生から、生活習慣病とその有効な対策について伝統食の良さ日本人の遺伝子、運動などを中心に、データに基づいたお話を伺いました。

NHKの体操指導で活躍の輪島先生には、生活習慣病予防に役立つ気軽にできる体操の実技指導もしていただきました。

内 容 講演と実技指導

主 催 第61回日本公衆衛生学会総会実行委員会

「日本人の遺伝子と生活習慣病予防」

香川 靖雄 (女子栄養大学副学長)

「健康づくりは笑顔から」

輪島 直幸 (武蔵野短期大学教授・NHK ラジオ体操指導者)

座長 三浦 宜彦 (埼玉県立大学教授)

2. 第2会場 (小ホール)

シンポジウム5 09:00~11:00

市町村における精神障害者生活支援の基盤づくり—埼玉県からの発信—

座長 渡嘉敷 暁 (埼玉県済生会鴻巣病院顧問)

高畑 隆 (埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉学科助教授)

1. 私が作った (実践している) 社会資源

広田 和子 (精神医療サバイバー)

2. ホームヘルプ事業を委託される立場から

—市町村の時代と東松山市の取り組み—

曾根 直樹 (東松山市総合福祉エリア総合相談・訪問センター所長)

3. 市町村への働きかけ—保健所保健師の立場から—

村上 則子 (埼玉県川越保健所精神保健福祉担当主査)

4. わが街の精神保健福祉—市町村における社会資源の構築—

高橋万紀子 (埼玉県三芳町役場健康課主任)

5. 埼玉県における市町村の現状—取り組みと変遷—

天野 宗和 (埼玉県立精神保健福祉センター精神保健福祉部地域支援担当専門調査員)

3. 第6会場 (601会議室)

ワークショップ2 09:00~11:30

研究成果のまとめ方と公衆衛生の雑誌を目標とした論文の作成方法

山縣然太郎 (山梨医科大学保健学Ⅱ講座教授)

7 分科会(示説発表)

名称	分科会名	演題数	開催日	会場
第1分科会	疫学・保健医療情報	66	10月24日	大宮ソニックシティ展示場
第2分科会	健康教育	83	10月25日	
第3分科会	ヘルスプロモーション・健康日本21・健康危機管理	140	10月24日	
第4分科会	保健所・衛生行政	34	10月25日	
第5分科会	地域保健・地域医療	155	10月24日	
第6分科会	難病・障害・医療福祉	39	10月25日	
第7分科会	成人保健Ⅰ(循環器疾患, 悪性新生物)	47	10月24日	
第8分科会	成人保健Ⅱ(その他)	33	10月25日	
第9分科会	母子保健・学校保健	148	10月24日	
第10分科会	老人保健福祉・介護	152	10月24・25日	
第11分科会	精神保健福祉	54	10月25日	
第12分科会	歯科保健	28	10月24日	
第13分科会	感染症	85	10月24日	
第14分科会	公衆栄養	31	10月24日	
第15分科会	食品衛生・薬事衛生	23	10月25日	
第16分科会	産業保健	31	10月24日	
第17分科会	環境保健・生活環境衛生	31	10月25日	
第18分科会	国際保健	26	10月25日	
第19分科会	公衆衛生と福祉	4	10月25日	
計		1,210		
ミニシンポジウムにおける演題発表数		203		
演題発表の総件数		1,413		

8 ミニシンポジウム

番号	演 題 名	開催日	参加者数	会場
1	インターネットを利用した健康情報の活用	10月24日	120	
2	既存統計資料の活用	10月24日	120	
3	児童虐待をめぐる諸提言	10月24日	220	
4	思春期相談と関係機関の連携	10月24日	150	
5	麻疹ワクチンをめぐる諸問題	10月25日	140	
6	ウイルス肝炎の予防	10月25日	140	
7	地域における保健医療福祉の連携システム	10月25日	150	
8	地域における保健医療福祉活動の一体化	10月25日	150	
9	医療従事者の喫煙対策	10月24日	150	
10	未成年者に対する喫煙防止	10月24日	200	
11	喫煙率半減への課題	10月24日	220	
12	山間遠隔地における保健・医療・福祉の連携	10月24日	30	
13	各地の感染症発生動向	10月25日	130	
14	感染症発生動向調査に基づく研究	10月25日	160	
15	保健師教育	10月25日	200	
16	保健師の卒後教育の取り組みと評価	10月25日	200	
17	健康日本21—地方計画の策定—	10月24日	100	
18	健康日本21—住民参画を中心に—	10月24日	150	
19	健康日本21—現状把握と目標設定—	10月24日	120	
20	健康日本21—高齢化対策を中心に—	10月24日	120	
21	難病患者の QOL	10月25日	150	
22	難病患者支援の取り組み	10月25日	150	
23	地域リハビリテーションの推進	10月25日	150	
24	地域リハビリテーション支援への取り組み	10月25日	100	
25	動物保護行政	10月24日	50	
26	環境と健康の創造	10月24日	30	
27	地域における糖尿病予防の取り組み	10月24日	90	
28	歯科保健	10月24日	25	
29	環境と科学物質	10月25日	60	
30	環境とアレルギー	10月25日	60	
31	地方分権から考える児童虐待対策	10月25日	110	
32	地域における HIV 予防活動	10月25日	90	
33	介護保健サービスの諸側面からの提言	10月24日	90	
34	痴呆症高齢者を支える取り組み	10月24日	90	
35	QOL の尺度開発	10月24日	90	
36	精神障害者・知的障害者の支援	10月24日	90	
37	結核の感染予防と治療	10月24日	100	
38	結核の1次予防と2次予防	10月24日	100	
39	循環器疾患と生活習慣	10月24日	100	
40	食環境整備	10月24日	70	
41	海外における国際協力の具体例	10月25日	60	
	計		4,825	

9 自由集会

番号	集 会 名	開催日	参加者数	会場
1	結核集団発生の対策に関する集会	10月23日	145	
2	日本公衆衛生看護研究会	10月23日	65	
3	第18回運動と健康自由集会	10月23日	50	
4	第11回多胎児を産み育てる家庭への保健サービスのあり方を考える集会	10月23日	40	
5	地域・職域における自殺予防	10月23日	45	
6	食環境づくり研究会第2回：食物生産・流通・提供面の取組み事例を中心に	10月23日	45	
7	全国衛生行政研究会総会・セミナー	10月23日	40	
8	質的研究の広場（または質的研究自由集会）	10月23日	39	
9	こう書けばわかる！保健師記録—記録にみる保健師活動の論点—	10月23日	30	
10	第7回地域保健福祉分野における情報通信技術の活用に関するシンポジウム：GISとGPSの応用	10月23日	30	
11	ヘルスプロモーションの視点から健康日本21地方計画を効果的に推進するポイントを考える	10月23日	40	
12	保健福祉行政サービスの行政評価と地域経営	10月23日	20	
13	エビデンスに基づく骨折予防自由集会	10月23日	20	
14	AIDS啓発におけるGOとNGOの共働をめざして	10月23日	50	
15	ハッピーファクターを探す会	10月23日	50	
16	知ろう・語ろう・考えよう！健やか親子21 その2	10月23日	57	
17	住民、当事者が本当に参加できる計画づくりは可能か	10月23日	50	
18	公衆衛生いきいきの会	10月24日	220	
19	第21回地域歯科保健フォーラム「介護予防に歯科はどう関わるか」	10月24日	200	
20	楽しくてためになる健康教育の実践	10月24日	60	
21	循環器予防自由集会—女性の高脂血症をどう考えるか—	10月24日	60	
22	健康危機へのpreparedness（準備）—救急、災害医療、放射線災害への訓練と組織から学ぶ—	10月24日	70	
23	第8回高齢者の健康づくり研究会	10月24日	50	
24	結核事業の見直しと問題点	10月24日	41	
25	『オーストラリアの地域ケアと医療』を学ぶ会	10月24日	20	
26	伝統医療など代替医療研究と公衆衛生	10月24日	30	
27	科学的根拠に基づいた保健活動の推進研究集会	10月24日	20	
28	公衆衛生理学療法士，作業療法士集会	10月24日	15	
29	性的指向とHIV感染	10月24日	38	
30	介護保険下の公衆衛生活動を考える自由集会	10月24日	10	
31	第5回レセプト情報の活用を考える集会	10月24日	41	
32	アルコール問題研究会	10月24日	9	
33	障害者の芸術活動を支える—自立・社会参加の試み—	10月24日	20	
34	第4回「公衆衛生に国境はない」	10月24日	30	
35	子どもの虐待リスクマネージメントのコツ（ワンコインセミナー）	10月24日	50	
36	第34回理論疫学研究自由集会	10月24日	30	
37	住まいと健康フォーラム—地域環境と化学物質による健康被害—	10月24日	35	
38	喫煙対策自由集会	10月24日	50	
39	「プレストヘルス研究会」	10月24日	40	
40	「地域高齢者の閉じこもり」自由集会	10月24日	50	
計			2,005	

10 紹介ブース（一般）

番号	団 体 名	代表者名
1	国立保健医療科学院	吉村由紀夫
2	特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター	五島真理為
3	財団法人結核予防会結核研究所	星野 斉之
4	埼玉県歯科医師会	蓮見 健壽
5	山梨医科大学保健学Ⅱ講座	山縣然太郎
6	埼玉県立大学保健医療福祉学部	大嶋 伸雄
7	特定非営利活動法人日本健康教育士養成機構	神山 吉輝
8	日本むし歯予防フッ素推進会議事務局	田浦 勝彦
9	財団法人放射線影響研究所疫学部	児玉 和紀
10	社団法人日本循環器管理研究協議会	上田 一雄
11	社団法人日本栄養士会	白石 美穂
12	岡山大学医学部公衆衛生学教室	関 明彦
13	日本 AS 研究会（日本 Arterial Stiffness 研究会）	原島敬一郎
14	衛生学公衆衛生学教育協議会	高野 健人
15	茨城大学教育学部養護教諭養成課程公衆衛生学研究室	瀧澤 利行
16	東京大学大学院教育学研究科健康教育学研究室	衛藤 隆
17	旭化成株式会社ネットビジネス推進部	橋 祐史
18	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻健康社会学研究室	小出昭太郎
19	社団法人全国保健センター連合会	浦園その子
20	兵庫県喫煙問題研究会	山岡 雅頭
21	株式会社山本理顕設計工場	仲 俊治
22	順天堂大学医学部衛生学教室	
23	京都大学大学院社会健康医学系専攻	中山 健夫
24	全国保健婦教育機関協議会	山崎 京子
25	東海大学・WHO・JICA 連携協力21世紀保健指導養成コース	岡崎 勲
26	女子栄養大学食生態学研究室	足立 己幸
27	日本公衆衛生学会	多田羅浩三
28	財団法人日本公衆衛生協会	松浦十四郎
29	大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学	多田羅浩三
30	次期開催ブース（京都市）	

*国立保健医療科学院は2ブース出展

*日本公衆衛生学会は2ブース出展

11 紹介ブース（健康日本21）

番号	団 体 名	代表者名
1	岐阜県多治見市保健センター	額額 朋弥
2	春日部市役所	関根 昇
3	新潟県上越健康福祉環境事務所	上野 春代
4	足立区役所 足立保健所	沢口 茂代
5	豊橋市役所	牧野 忍
6	益田市役所	松本 泰典
7	財団法人社会保険健康事業財団	原 真理
8	島根県	魚谷 幸枝
9	松江健康福祉センター	
10	出雲健康福祉センター	
11	川本健康福祉センター	
12	浜田健康福祉センター	
13	広瀬町	
14	斐川町	
15	西郷町	
16	江津市役所	
17	松江市役所	
18	浜田市役所	
19	横須賀市保健所	草野 政明
20	栃木県岩舟町役場	塚本由紀子
21	群馬県	山田 順一
22	日本歯科医師会産業保健委員会	森田 芳和
23	熊本市	湯田真喜雄
24	静岡県	近藤 今子

*島根県は2ブース出展

*8-18の計12ブースは島根県が代表で申込

第61回日本公衆衛生学会総会収支決算書(案)

【収入の部】

(単位：円)

区 分	決算額	摘 要
開催地負担金	4,500,000	埼玉県：3,000千円，さいたま市：1,500千円
都道府県市負担金	5,170,000	
日本公衆衛生学会負担金	3,000,000	
繰 越 金	200,000	第60回学会総会（香川）
抄録集売上収入	23,099,060	事前売上 2,435冊 当日売上 1,510冊
演題申込金収入	4,200,000	演題申込 1,413題
諸 収 入	9,613,166	助成金・寄付金，広告・企業展示・ブース展示料，共済費 自己負担分，自由集会備品使用料，布袋売上代金，利子
計	49,782,226	

【支出の部】

科 目	決算額	摘 要
準 備 費	36,867,406	
賃 金	1,600,171	日々雇用職員（4～10月分）
共 済 費	472,812	日々雇用職員（4～10月分）
旅 費	525,912	事前打合せ，実行委員会，前年会場視察等
役 務 費	309,338	通信，運搬費，郵便
需 用 費	841,356	事務用品，食糧費等
委 託 費	32,813,267	学会総会運營業務委託，各種印刷等の委託
使用料及び貸借料	109,250	実行委員会，学術委員会等会議室使用料
備 品 購 入 費	195,300	パソコン
総 会 費	9,195,608	
報 償 費	1,589,528	講演者，アナウンサー謝金等
旅 費	179,250	動員職員旅費等
役 務 費	2,240	郵便料等
需 用 費	1,097,300	事務用品，記念品等
使用料及び貸借料	6,327,290	会場借上料
事後処理費	3,519,212	
賃 金	767,017	日々雇用職員（11～3月分）
共 済 費	245,680	日々雇用職員（11～3月分）
旅 費	275,940	理事会，事務引継等
役 務 費	393,330	講演テープ反訳等
需 用 費	1,617,945	報告書印刷費等
使用料及び貸借料	19,300	実行委員会会場借上料
寄 付 金	200,000	障害者関係機関へ寄付
繰 越 金	200,000	第62回学会総会（京都）
計	49,782,226	